

ヒューマンコミュニケーショングループ
Human Communication Group

ニューズレター

2002年度 No. 2

URL : <http://www.ieice.org/hcg/jpn/>

Contents

- ・ 2002年FIT大会特別企画報告
- ・ 研究会の活動報告
- ・ ヒューマンコミュニケーショングループ
関連行事のお知らせ

2002年FIT大会特別企画報告

平成14年度企画幹事
管村 昇 (NTT)

福祉情報工学研究会(WIT)前委員長
市川 熹 (千葉大学)

日本国内における情報系の2つの大きな学会である電子情報通信学会の情報・システムソサイエティ(ISS)と情報処理学会(IPSJ)の主催による初の全国大会「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」が、昨年9月25日から28日の4日間、東京工業大学大岡山キャンパスで開催されました。従来の全国大会などの形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、議論・討論の活性化、他領域研究者との交流などを目的として実施されました。

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)はFITに参画し、共同開催の主旨にそって、2つの講演会を企画しました。その1つは情報処理学会・ヒューマンインタフェース研究会との合同で「五感研究の最前線とそのインタフェースへの応用」、もう1つは「情報通信機器の非関税障壁になるか『米国リハ法508条』」でした。

「五感研究の最前線とそのインタフェースへの応用」では、視聴覚については、柏野牧夫氏(NTT)、触覚については岩田洋夫氏(筑波大学)、嗅覚については中本高道氏(東京工業大学)、味覚については都甲潔氏(九州大学)と各研究分野を代表する研究者の皆様にご講演を頂きました。それぞれの講演は、非常にわかりやすく工夫され興味深いものでした。聴講者は当初予想したより少なかったものの、活発な質疑応答があり、参加した皆様には満足のいく企画であったと思います。

「情報通信機器の非関税障壁になるか『米国リハ法508条』」は、障害者・高齢者を支援する情報通信技術の推進と導入を目的に、米国ではリハビリテーション法508条が2001年6月より強制力が発効、EUでも規格化が進められ、日本にも大きな影響が予測されます。このような状況を把握していただくことが重要な時期になっているものと考え本講演会を企画しました。講演は「米国リハ法508条」を羽山繁氏(松下電器)、「米国企業の取り組み」岡本明氏(筑波技術短期大学)、「アクセシビリティ関連のISOと欧州標準の動向」中野義彦氏(沖電気工業)、「経済産業省の施策」亀屋俊郎氏(経済産業省商務情報政策局課長補佐)、三島由佳氏(総務省情報通信政策局課長補佐)、わが国における情報通信アクセシビリティ・ガイドライン標準化の向山田肇氏(東洋大学)にお願いしました。補助椅子を追加するほどの盛況で、時期を得た企画と大変好評でした。



「情報通信機器の非関税障壁になるか『米国リハ法508条』」の会場の様子

研究会の活動報告

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)では、4つの第一種研究会と1つの第二種研究会、1つの第三種研究会が研究活動を進めています。本号では、これらの中から、2つの第一種研究会と第三種研究会の活動状況を紹介します。

研究会の活動報告①

福祉情報工学研究会(WIT)

専門委員長 野城真理(北里大学)

福祉情報工学研究会は本年度すでに4回の研究会を開き、2002年度FIT大会で「情報通信機器の非関税障壁になるか—米国リハ法508条—」という特別企画を実施しました。この特別企画の内容については、本ニュースレターの前ページで市川前福祉情報工学研究会委員長が詳述されているので、ここでは省略します。2003年3月21日と22日には、ヒューマン・コミュニケーション・グループ大会の一環として、手話情報学研究会との共催で第5回研究会を東北大学で開催します。また、同時期に開かれる本学会総合大会の中で「日本企業各社のアクセシビリティ・ガイドライン」というチュートリアル講演を企画しています。

本年度これまでに開催された研究会の概要は次の通りです。

- 第1回研究会
2002年6月20日(木)
会場：機械振興会館
テーマ：福祉情報工学全般
発表件数12件、参加者数40名
- 第2回研究会
2002年9月19日(木)20日(金)
パターン認識とメディア理解研究会と共催
会場：東北大学
世話人：大町真一郎先生
テーマ：福祉情報工学と画像処理及び一般
発表件数21件、参加者数延べ84名(19日：52名、20日：32名)

- 第3回研究会
2002年10月30日(木)31日(金)
会場：宇都宮大学
世話人：粕谷英樹先生
テーマ：福祉情報工学と音声処理及び一般
発表件数27件、参加者数延べ73名(30日：37名、31日：36名)
- 第4回研究会
2002年12月6日(金)
会場：工学院大学
世話人：長嶋祐二先生
テーマ：福祉情報工学とソフトウェア及び一般
発表件数10件、参加者数43名

他研究会と共催することによって互いに刺激し合い、関連分野の研究者が研究会に出席しやすくなるように努めています。発表件数は研究会発足当初に比べるとやや減少しましたが、定常状態に入ったものと考えています。

研究会の活動報告②

マルチメディア・仮想環境基礎研究会(MVE)

専門委員長 横井茂樹(名古屋大学)

今年度のマルチメディア・仮想環境基礎研究会は、6月、7月、10月、11月と4回実施し活発な議論を行ってきました。とくに、本学会の他研究会および他学会との積極的な共催を行い、新しい分野の開拓に努めてきました。

6月の研究会では、ヒューマンインタフェース学会、映像情報メディア学会、ネットワークヒューマンインフォメーション学会、日本バーチャルリアリティ学会と共催し、本研究会の重要テーマである「人工現実感」について理解を深めました。発表内容としては、可視化、映像生成手法、力覚提示、ディスプレイ、知覚などの人工現実感の基礎分野について多数の発表があるとともに、ウェアラブルなどの新しい取り組みについての発表もあり興味深い内容でした。

7月には、恒例となっている「画像パターン認識」分野の研究発表が行われ、画像パタ

ーン認識, 画像符号化, 画像処理, 3次元画像情報処理, 画像特徴検出, 画像生成と画像関係の多彩な発表が行われました。関連が深い研究分野であるだけに, 研究会相互に理解が深められました。

10月の研究会は, 今年度初の単独開催でした。コミュニケーションを豊かにするためのモーションメディアに関して特集を行い, 2件の招待講演を軸に活発な議論が行われました。台風の影響でやや参加者が少なかったのですが, 興味あるテーマで活発な議論が行われました。

11月の研究会は, 7月に次いで今年2度目の北海道開催でした。本学会情報ネットワーク研究会, モバイルマルチメディア研究会, および情報処理学会オーディオビジュアル複合情報処理研究会との共催で, 二日間に渡り多数の発表が行われました。特集テーマはウェアラブル, ユビキタス, アドホックネットワークということで, 新しい分野での研究発表が活発に行われ, 研究会相互に有益な議論が行われました。携帯電話赤外線通信, GPSシステム, MPEG-4 AVCなどホットな話題での特別講演が行われ, 有線, 無線ネットワークとマルチメディア仮想環境の関わりに関して展望を得る良い機会でした。

本研究会は, 今後とも, マルチメディア, 仮想環境関係の新しい分野に取り組んで行く予定です。

研究会の活動報告③

手話情報学研究会 (SiLE)

専門委員長 神田和幸(中京大学)

手話情報学研究会は, 第1期として1995年4月より電子情報通信学会情報・システムソサエティの教育工学研究会傘下の第3種研究会(期間2年間)として発足し, その後, 第2期として1997年4月より本ヒューマン・コミュニケーション・グループ傘下の第3種研究会に移行しました。本年度は, 下記の通り, 他学会や研究会との共催によって研究会を行いました。

<研究会>

- 第1回研究会
2002年6月6日(土), 16日(日)
会場: 日本大学 文理学部キャンパス
主な内容: 日本手話学会 第28回大会と共催
- 第2回研究会
2002年9月1日(日)~3日(火)
会場: 北海道大学
主な内容: ヒューマンインタフェースシンポジウム2002
- 第3回研究会
2002年11月22日(金), 23日(土)
会場: 東北大学
主な内容: ヒューマンインタフェース学会研究会と共催
- 第4回研究会
2003年3月(予定)
主な内容: IEIC 3E 福祉情報工学研究会と共催

また, 国際学会において研究グループとして研究成果を発表しました。

<国際学会発表 (sILE WG) >

- ICITA2002
FIRST INTERNATIONAL CONFERENCE ON INFORMATION TECHNOLOGY & APPLICATIONS (ICITA 2002), Bathurst, Australia, 25-29 November 2002.

さらにワーキンググループでは, 解析ツールを活用した例文映像データからの sIGNDEX 抽出および解析作業を数回行いました。

本年度の活動計画であったが十分な成果に至らなかったのは, 下記の点です。

- 1) 手話表出空間の計測
- 2) sIGNDEX 例文映像データの収録
- 3) sIGNDEX 解析データの確認
データの妥当性のチェック, 共起関係の再チェック, 記述内容の確認

本年度は活動が少なかったのが反省点ではありますが, 次年度は活動の活発化を促進する予定です。

ヒューマンコミュニケーショングループ関連行事のお知らせ

詳しくは、HCG ホームページ <http://www.ieice.org/hcg/jpn/> をご覧ください。

ヒューマンコミュニケーション グループ (HCG) 大会

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) では、グループ大会を開催致します。グループ大会では、HCG 傘下の4研究会に加え、第二種研究会 (インタラクションによる知識の創生) の企画、そして「エンターテインメントコンピューティング」のシンポジウムを特別に企画しています。東北大学での本会総合大会に半分重なるように日程を設定し、会場も総合大会会場より徒歩5分の教育学部に設けています。奮ってご参加よろしくお祈りいたします。

■ 大会概要

- 日時
3月18日 (火) 10:45~17:55
3月19日 (水) 9:00~18:05
3月21日 (金) 13:00~16:50 (WITのみ)
3月22日 (土) 13:00~15:00 (WITのみ)
※ 総合大会は19日~22日です。
- 会場
東北大学 川内 文系キャンパス
文科系総合研究棟 202, 206, 306 教室および文・教大講義室 (総合大会会場の川内北キャンパスより徒歩5分)

■ プログラム概要

- HCGグループ大会特別企画「コミュニケーション研究の新しい流れ -エンターテインメントコンピューティング-」(総合大会チュートリアル講演「コミュニケーション研究の新しい流れ」と同一)
3月19日 (水) 10:30~15:30
- ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 (HCS)
3月18日 (火) 13:00~17:30
- ヒューマン情報処理研究会 (HIP)
3月18日 (火) 10:45~17:55
19日 (水) 9:00~10:15, 16:50~18:05
- マルチメディア・仮想環境基礎研究会 (MVE)
3月18日 (火) 10:45~17:30

19日 (水) 9:00~10:15

- 福祉情報工学研究会 (WIT)
3月21日 (金) 13:00~16:50
22日 (土) 13:00~15:00
- インタラクションによる知識の創生委員会 (KCI) 企画「社会科学から見た相互作用と賢さ」
3月19日 (水) 17:00~18:30
※セッション終了後、懇親会と研究会を開催予定 (詳しくは、<http://krectmt3.tmit.ac.jp/IIP/sice-sogo/4th-meeting.html> を参照下さい)
- HCG 大会懇親会
3月19日 18:30~20:30
仙台国際センター内 ラフォーレ (東北大学 川内キャンパスより徒歩10分)

平成15年度 主催・共催行事

- ★ ACM CHI 2003: Conference on Human Factors in Computing Systems
会期: 平成15年4月5日~10日
開催地: Fort Lauderdale, Florida, USA.
詳細情報: <http://www.acm.org/chi2003>
- ★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会
 - 平成15年4月25日 (金)
会場: 早稲田大学理工学部大久保キャンパス
テーマ: ロボットコミュニケーションおよび一般
映像情報メディア学会メディア工学研究会と共催。当日、早稲田大学ヒューマンノイド研究所見学があります。
 - 平成15年6月13日 (金)
[発表申込締め切りは4月中旬]
会場: 大阪工業大学枚方キャンパス
テーマ: コミュニケーションの心理学・生理学 および一般